

日本アフリカ学会第49回学術大会
平成24年5月27日 於：国立民族学博物館

フォーラム：
アフリカの「音文化」は、
「無形文化遺産」であるか、ありうるか？

その5： ジンバブエにおける ンビラ音楽の継承

名古屋大学文学研究科
松平勇二

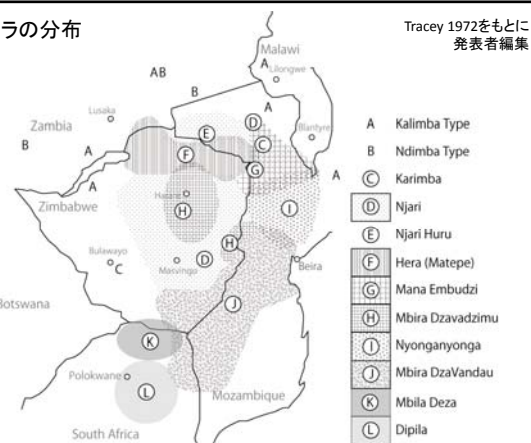


1. 楽器の特徴

ジンバブエの国民的楽器

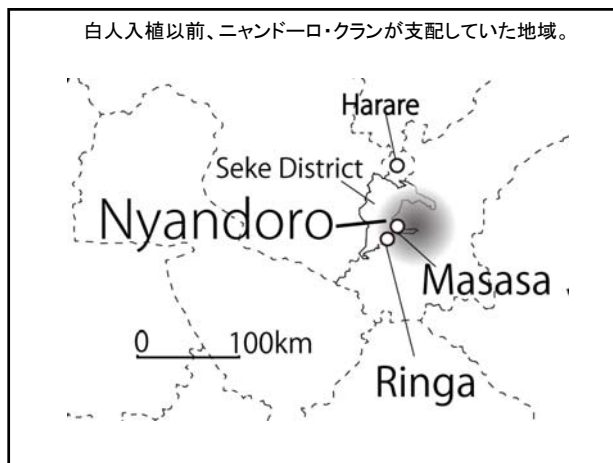
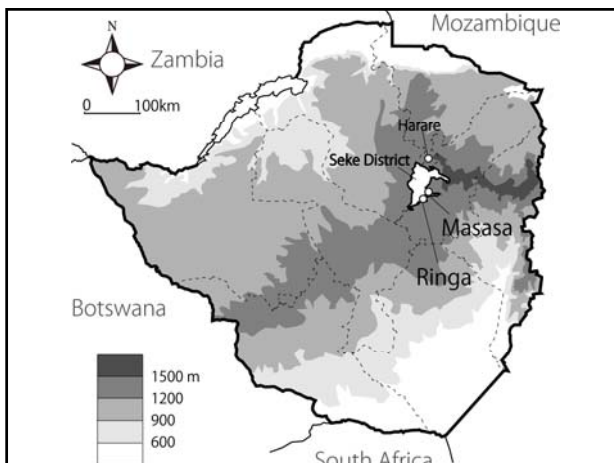
- ジンバブエの広い地域に分布
- 人口の8割を占める、シヨナ族の伝統的な宗教儀礼で演奏される
- ジンバブエ国営放送で、頻繁に放送(独立記念日、時代劇)
- 都市のナイトクラブでも演奏される

ンビラの分布





2. 儀礼におけるンビラ



白人入植以前、ニヤンドロー・クランが支配していた地域。

ニヤンドーロ地域の伝統宗教とンビラ

- 「祖先のンビラ」(Mbira Dzavadzimu)
- 祖霊信仰と強い結びつき(雨乞い、病氣治療)
- 祖霊信仰は伝統的な政治とも結びつく
- ンビラの政治性、宗教性

ンビラが演奏される儀礼

- 葬送儀礼 (家族儀礼)
 - 埋葬
 - 追悼
 - 相続
 - 憑依儀礼
 - 治療儀礼 (家族、氏族)
 - 雨乞い (氏族)
 - 収穫祭 (氏族)
- など

儀礼開催場所

- マササ村
- ニヤンドーロ氏族の70代の女性霊媒師「ビリナガニレ」
- 1984年ごろ、精霊「ビリ」(Biri)、「ガニレ」(Ganire)が憑依
- 古くからニヤンドーロ氏族の信仰対象
- 雨と治療
- ビリナガニレの神殿「バーニャ」(Banya)
- 農耕に関する、年3回の季節祭
 - 4月(収穫祭)
 - 7月(冷害予防の儀礼)
 - 9月(雨乞い儀礼)

儀礼開催時期

- 開催期間 2011年9月14(水)-21(水) 8日間

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
自然条件	雨季						乾季					
農作業	耕畑 草刈り 播種			収穫								
行事	雨乞い ンビラ			収穫祭								
ハラレの降水量 (mm)	6.5	40.4	93.2	182.7	190.8	176.3	99.1	37.2	7.4	1.8	2.3	2.9
平均最高気温	28.4℃	28.8	27.6	26.3	26.2	26.0	26.2	25.6	23.8	21.8	21.6	24.1
平均最低気温	11.7℃	14.5	15.5	15.8	15.8	15.7	14.5	12.5	9.3	6.8	6.5	8.5

儀礼参加者①

順位	霊の名前	霊の氏族	霊媒師の性別	霊媒師の居住地
1	Biri naGanire	無	女	マササ
2	Chitsachegore	無	男	ハラレ (マササから20km)
3	Musanyange	Nyandoro	男	ムレワ (マササから130km)
4	Chigonga	Nyandoro	男	チノイ (マササから190km)
5	Machengo	Nyandoro	女	リング (マササから20km)
6	Muzanenhano	Nyandoro	女	リング (マササから20km)
7	Kaseke	Mhofu	女	不明
8	Mukanya	Soko	女	不明
9	Shumba	Shumba	女	不明

- ンビラの演奏は祖先によって受け継がれてきた
- 祈りの一様式としてンビラの演奏がおこなわれる

儀礼参加者②

参加者の役名	氏族	居住地	性別	役割
Mutapi/ Nyamai	Mazarura	マササ	男	ビリの伝令、または通訳をおこなう。ビリに関わる全ての会話は、彼によって復唱される
Mukaranga 1	Anyemba	マササ	女	年配の女性、ビリに関わる炊事洗濯など
Mukaranga 2	Nyandoro	チノイ	女	10代の女性、ビリに関わる炊事洗濯など
Ishe	Nyandoro	マササ	男	本来は氏族の首長であるべき、儀礼の進行役
Gwenyambira 1	Nyandoro	マササ	男	ンビラ奏者(進行役と兼任)
Gwenyambira 2	Museyamwa	マウセクワ	男	ンビラ奏者
Gwenyambira 3	Sokokumene	マササ	男	ンビラ奏者
Gwenyambira 4	発表者	リング	男	ンビラ奏者
役名なし	Nyandoro	マササ	男	マラカス奏者
Samusuwo	不明	マササ	男	酒、食事、肉の管理
なし	複数	複数	男女	一般参加者

儀礼内容

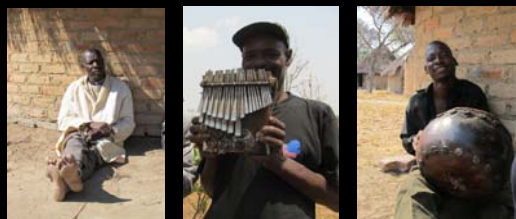
儀礼内容	日程	ンビラ演奏	時間
1 酒造り	儀礼開始1週間前	無	—
2 神木への酒奉納	初日午後	有	30分
3 悉依儀礼	初日夕方	有	1時間
4 霊拝(集会)	毎日(午前)	有	約4時間
5 霊拝(集会)	毎日(午後)	有	1-10時間
6 雨乞い儀礼	5日目	有	2時間弱
7 霊の離脱	最終日	有	約2時間

1日約10時間の演奏

1日2回以上の演奏
 午前の演奏 5:00-9:00
 午後の演奏 20:00-25:00(長い時は翌朝まで)

3. ンビラ奏者(Gwenyambira)

ピリナガニレの神殿のレギュラーメンバー



名前	Dzongodza Taonezvi (ゾンゴザ・タオネジ)	Michael Murevanhema (マイケル・ムレワネマ)	Bothwell Kanengoni (B. カネンゴニ)
年齢	60代	60代	30代
クラン	Nyandoro	Soko Kumene	Bhuramai
習得	夢、父	兄	兄、Dzongodza
その他	幼少期、ジンバブエ北部に居住	代々ピリナガニレのもとで演奏	代々ピリナガニレのもとで演奏

不定期に参加するメンバー



名前	Leonard Chiyanike	Samson Bvure
年齢	60代	40代
クラン	Nyakuzvizwa	Chihota
習得	父、兄、ジンバブエ東部	ジンバブエ北部
その他	ニヤンドーロ地域に居住。数年に一度参加。	ニヤンドーロ地域に居住。1-2年に一度参加。ンビラ職人。

3つの継承法

1. 弟子入り

- 師匠へ弟子入りし、伝統曲の修行
- 師匠が奏法を見せて、聴かせて教える
- 音楽奏者が属するカーストはない



2. 模倣

- 幼いころより儀礼に参加することで、音楽を身につけ、教えられることなく楽器で再現
- 儀礼における長時間の演奏・技術交流

→我流

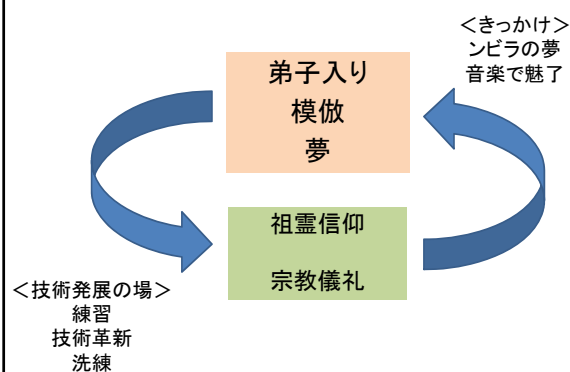
3. 夢での習得 (Kurota Mbira)

- 夢のなかで作成法、演奏法を習得
- 夢で習得された曲の真正性
 - 「伝統」の域内での獨創性
 - 業を夢見ること
 - ンビラの不滅性
- 夢は祖霊の導きと理解される

まとめ

- ① 国民的楽器
 - 国の広い範囲に分布
 - 伝統文化のシンボル
- ② ンビラと祖霊信仰とのつながり
 - 首長制
 - 儀礼
 - 夢
- ③ 3つの伝承法
 - 儀礼における技術交流

ンビラ習得の機会



無形文化遺産としてのンビラ音楽

- 文化的背景
 - 伝統的な政治、宗教と関わる
 - 国民的楽器、伝統文化のシンボル
 - キリスト教化による祖霊信仰の衰退
「また夢で復活する」-危機感薄い
- 継承法
 - 儀礼における技術革新

